

平成24年度アクションプランの内容

4つの重点対象を設定

東日本大震災を
踏まえた新たな
柱として設定

復興・再生並びに 災害からの安全性向上

- 東日本大震災からの復興・再生を遂げ、地域住民がより安全に暮らせる社会の実現を目指す。
- 東北地域の復興・再生をモデルとして、より安全、かつ豊かで質の高い国民生活を実現する国を目指す。

我が国の現状を
踏まえて内容を見直し

グリーンイノベーション

- 自然と共生し持続可能な環境・エネルギー先進国の実現を目指す。

ライフイノベーション

- 心身ともに健康で活力ある社会の実現を目指す。
- 高齢者・障がい者が自立できる社会の実現を目指す。

新たに追加

基礎研究の振興及び 人材育成の強化

- 世界共通の課題を克服し、豊かな国民生活を実現し、科学技術を文化として育み、多様な人材を育成確保する社会の実現を目指す。

重点施策パッケージの特定について

昨年度まで

【これまでの優先度判定】

アクションプランの対象を含む一定予算規模以上の個別施策毎に、優先度(SABC等)を判定

今年度から、優先度判定に代わり

アクションプランの対象の施策については、概算要求前に、対象施策を特定し
(AP対象施策)、資源配分を最重点化

アクションプランの対象として特定された施策以外の施策については、
概算要求後に、重点施策パッケージを特定し、資源配分を重点化

◆ 施策パッケージとは

- ・ 第4期科学技術基本計画に従い、各府省が成果検証可能な具体的目標を掲げ、その達成に必要な複数の施策をまとめた施策群をいう
- ・ 各府省が特に推進しようとする施策パッケージを提案
- ・ 科学技術政策担当大臣・有識者議員は、各府省が提案した施策パッケージから重点化すべきものを特定し、総合科学技術会議に報告

◆ 何故、施策パッケージなのか

第4期計画は、課題解決型に転換。このため、個別施策ではなく、課題解決までの一連の流れを構成する施策群を捉えることが必要

重点施策パッケージの特定基準について

【重点施策パッケージの評価方針】

資源配分方針において、新たな予算編成プロセス導入の際の留意事項として、「研究開発等の目的、達成目標、達成時期が明確であること等に加えて、イノベーションを着実に推進する上で、施策を担う組織が適切に機能を発揮することが極めて重要であることから、施策を推進する組織の実績やマネジメント体制が優れていることを重要な視点の1つとする。」とされていることを踏まえた評価を実施

【重点施策パッケージの特定基準】

目的・目標等について

- 成果検証が可能となる明確な目標とその達成時期が設定されていること。
- 目的・目標が、社会情勢、国際的な水準からみて妥当なものであり、かつ第4期計画の目標、重要課題の達成に大きく貢献すると判断されるものであること。

目標達成に向けたアプローチについて

- 目標達成に必要な取組(社会実装に向けた取組、制度の改善など)が明確であること。

実施体制について

- 適切なマネジメントが期待できるものであること
 - 施策パッケージ責任組織が過去に実施した同程度規模の取組において、どのような目標設定を行い、その目標達成に向けてどのようなマネジメントを行ってきたのか。また、どのような成果を挙げてきたのか。その経験を踏まえ、今回どのようにマネジメントを行うのか。
 - 施策パッケージ責任組織と施策実行組織の役割分担は明確となっているか(施策実行組織の責任と権限は文書等に基づき明確にされているかなど)